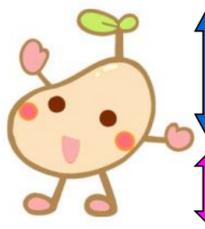


大豆(ちくしB5号)栽培暦

根粒菌を活かし大豆の収量向上に努めましょう!!



根粒菌の窒素固定で180kg

地力窒素で120kg

収量300kg/10a取りのイメージ

○根粒菌は、湿田等、環境が悪いと活動が低下します!

○根粒菌を活かすには!

① 土壌を湿った状態にすること(地下水位40cm以下)
・開花期の乾燥は特に厳禁!

② 排水を良くし、酸素にふれさせること
・湿害や土がしまっている場合は酸素が少ないので注意!

③ pHを適正に保つこと
・最適pHは6.0~6.5です

〜ちくしB5号栽培のポイント〜 フクユタカより早播可能

- ① 県北は6月下旬から播種が可能
- ② 播種適期は7月20日まで
- ③ 播種時期に合わせた播種量の設定を

| 項目 | 生育相 | 主な作業 |
|-----|-------------|---|
| 6月 | 中 下 | ① 堆きゅう肥・土壌改良資材の施用 ② 排水対策(周囲溝、弾丸暗きよ、畝立てなど) ③ 施肥・耕起整地 |
| 7月 | 上 中 下 | ・種子消毒・播種 ・除草剤散布 ・第1回中耕培土 本葉2~3枚 (播種後15日) |
| 8月 | 上 中 下 | ・第2回中耕培土 本葉4~5枚 (播種後25~30日) ・病害虫防除 ① ハスモンヨトウ(早播は特に発生に注意) 白変葉(若齢幼虫集団)が発生したら除去 効果が高い若齢期に防除 フェロモントラップ誘殺数のピークから10日後に防除 |
| 9月 | 上 中 下 | ・乾燥時の畝間灌水 ・病害虫防除 ① ハスモンヨトウ ② カメムシ類 幼葉期~子実肥大期の9月中~下旬に防除 ③ 紫斑病 カメムシ同時防除 |
| 10月 | 上 中 下 | ・青立ち株・雑草除去 |
| 11月 | 上 中 下 | ・収穫 |



■ほ場の選定とつくり

- ① 排水良好な水田を選び、大豆ほ場の集団化をはかる。
- ② 地力増強のため、堆きゅう肥(0.5~1t/10a)を施用する。
※連作ほ場では、チッソ入りのベスト444を使用してください。

■排水対策

排水不良田では生育不良となるので、地下排水(本暗きよ、弾丸暗きよ)と地表排水(周囲溝、畝立て)を組み合わせ排水対策を行ってください。

■土壌改良材と肥料

| 使用資材名 | 施用量(kg/10a) | 成分量(kg/10a) | チッソ | リン | 酸力 | リ |
|-----------|-------------|-------------|-----|-----|-----|-----|
| 粒状ミネラルG | 160~200 | - | - | - | - | - |
| 粒状苦土石灰 | 100~120 | - | - | - | - | - |
| 肥料 ベスト444 | 15 | 2.1 | 2.1 | 2.1 | 2.1 | 2.1 |

- ① 麦ワラをすき込んだ場合は、チッソ成分を1kg程度増やす
- ② 土壌診断によって石灰資材の投入量を調整する

■栽培様式(播種深度は3cmが基準)

| 栽培型 | 播種時期 | 播種量(kg/10a) | 条間(cm) | 株間(cm) |
|-------------|----------|-------------|--------|--------|
| 早播 | 6月20~30日 | 3.0 | 70 | 30 |
| 適期播 | 7月1~10日 | 3.0~4.5 | | 30~20 |
| 遅播 | 7月11~20日 | 4.5~6.0 | | 20~15 |
| 晩播の場合(狭畦密植) | 7月21~7月末 | 6.5~8.0 | 35~40 | 20 |

※梅雨時期は湿害対策で浅播き、梅雨明け後は乾燥対策で深播き(5~6cm)を!
※地力の高いほ場は早播きすると倒伏しやすいので、連作や湿害の出やすいほ場から播種する(遅くとも7月末まで)

※降雨等で出芽不良が著しい場合は、早めに播き直しを行いましょ

■種子消毒

| 薬剤名 | 処理方法 | 使用量 | 対象病害虫 |
|--------------|------|----------------|----------------|
| キヒゲン | 種子粉衣 | 種子1kgに薬剤10g粉衣 | 紫斑病・ハト他 |
| キヒゲンR-2フロアブル | 種子塗沫 | 種子1kgに薬剤20mL塗沫 | 紫斑病他 |
| クルーザーMAXX | 種子塗沫 | 種子1kgに薬剤8mL塗沫 | 紫斑病・ネキリムシ類・ハト他 |

※クルーザーMAXXは、湿潤条件でも有効だが乾燥条件下では発芽率が低下するので、注意!

■除草剤 連作ほ場や雑草多発ほ場は、播種前からの体系防除を行いましょ!

○茎葉処理剤(播種前に発生している雑草を枯らす)

| 除草剤名 | 10a当り使用量 | 希釈水量 | 使用時期 |
|----------------|-----------|---------|---------|
| ラウンドアップマックスロード | 200~500mL | 50~100L | 耕起前~出芽前 |

○土壌処理剤(播種後に発生する雑草を抑える)

| 除草剤名 | 10a当り使用量 | 希釈水量 | 使用時期 |
|-------------|------------|---------|---------|
| 粒剤 ラクサー粒剤 | 4~8kg | - | 播種後~出芽前 |
| サターンバアロ粒剤 | 4~6kg | - | |
| 乳剤 ラクサー乳剤 | 400~800mL | 100L | |
| サターンバアロ乳剤 | 600~1000mL | 70~100L | |
| 水和剤 フルミオWDG | 5~10g | 100L | |

※フルミオWDGは、広葉雑草用ですので、ラクサー乳剤等と混用しましょ

○茎葉処理剤(生育中に発生している雑草を枯らす)

| 除草剤名 | 10a当り使用量 | 希釈水量 | 使用時期 |
|-------------------|-----------|---------|----------------------------------|
| ポルトフロアブル | 200~300mL | 50~100L | イネ科雑草3~10葉期(収穫30日前まで) |
| アタックショット乳剤 | 30~50mL | 100L | 広葉雑草生育期(大豆2葉期~開花前 収穫45日前まで) |
| パワーガイザー液剤 | 200~300mL | 100L | 広葉雑草発生始期~2葉期(大豆出芽直前~3葉期) |
| 大豆バサグラン液剤(ナトリウム塩) | 100~150mL | 100L | 広葉雑草生育初期~6葉期(大豆2葉期~開花前 収穫45日前まで) |

※ポルトフロアブルはイネ科雑草用です。周囲の水稲にかからないように注意しましょ!

※アタックショット乳剤・パワーガイザー液剤は広葉雑草用です。褐変・黄化等の症状がみられることがありますが、その後の生育に影響はほとんどありません。

※大豆バサグラン液剤はポルトフロアブルと混用可能です。

※乾燥条件で散布すると効果が劣ります。乳剤は希釈水量を増やす(登録の範囲)などの対策を!

■病害虫防除

| 農薬名 | 10a当り使用量 | 希釈倍率 | 使用液量 | ハスモンヨトウ | カメムシ類 | 紫斑病 | 使用時期(収穫前) | 使用回数 |
|-----|------------|------------|----------|---------|-------|-----|-----------|------|
| 粉剤 | トレボン粉剤DL | 4kg | - | ○ | ○ | | 14日前まで | 2回 |
| | アルバリン粉剤DL | 3kg | - | | ◎ | | 7日前まで | 2回 |
| | スミトップM粉剤 | 3~4kg | - | | ○ | ○ | 21日前まで | 4回 |
| 液剤 | プレバソフロアブル5 | 4,000倍 | 100~300L | ◎ | | | 7日前まで | 2回 |
| | トレボンEW | 1,000倍 | | ○ | ○ | | 14日前まで | 2回 |
| | アルバリン顆粒水溶剤 | 2,000倍 | | | ◎ | | 7日前まで | 2回 |
| | トップジンM水和剤 | 700~1,500倍 | | | | ○ | 14日前まで | 4回 |

※マメシクイガが出た場合はプレバソフロアブル5を使用する。(ハスモンヨトウの防除時期)

■収穫

- ① 大部分の葉が落ち、莢が褐変し、振れば「カラカラ」音がするか、莢が手でポキッと折れたら収穫します(子実水分20%以下)。
- ② 青立ち株やホソアオゲイトウなどの大型雑草は汚損粒の原因となるので、刈取前に抜き取る。

